

今号は、「①いの健京都センター2023年度第4回理事会報告、②この間の内外情勢のザッピング、③編集子の独り言、④今月のお勧めの3冊」です。

## I いの健京都センター2023年度第4回理事会、開催！

4月23日夜、いの健京都センターは、2023年度第4回理事会を開催しました。河本理事長が冒頭、「医師の働き方改革（時間外労働の上限規制）が4月スタートしたが、現場にしわ寄せがきている。そもそも医師が少なすぎるのが問題。医療・社会保障予算を増やせと言いたい。世界の2023年の軍事費、とてつもない額となっている。日本も昨年と比べて11%増だ。軍拡は、さらなる緊張につながる。悪循環だ。日米首脳会談が開催され、米軍と自衛隊の一体化が謳われたが、実際は米軍の言いなりとなり、さらなる危険な状況となることは目に見えている。そうではなくて、軍事費をけずって、医療・社会保障に回すべきだ。8月末のいの健京都センターの第26回定期総会に向け、運動を強めていきたいので、よろしく！」とあいさつされました。理事会の進行は中野理事が、議案の提案は岩橋事務局長が行いました。経過報告・情勢討議を行った後、第26回定期総会の開催とそれまでのとりくみについて協議しました。各理事から報告、交流と意見交換では、2024年春闘の状況、最近の労災の特徴、時間外労働の上限規制、青年労働者の意識と動向の問題などが出されました。次回第5回理事会は、7月23日（土）開催で、第26回定期総会の議案などについて協議する予定です。

## II この間の内外情勢のザッピング

### 1 6カ月を超えたイスラエルのガザへのジェノサイド（大量虐殺）攻撃

4月1日、イスラエルが、シリアのイラン大使館を空爆。4月13日、イランは、無人機・ミサイルでイスラエルを攻撃した。報復の連鎖、紛争の拡大に懸念の声が、広がっている。4月16日、パレスチナ自治政府の保健省は、イスラエル軍の攻撃により、パレスチナ自治区ガザ地区での死者数が合計で3万3843人、負傷者数が合計で7万6575人となったと発表した。国連女性機関「UNウィメン」も、同日、女性に焦点を当てた報告書を公表し、それによればこの過去6か月間で1万人のパレスチナ女性が殺害され、そのうち6千人が母親で、片親または両親を失った子供が1万9千人になったと明らかにした。



### 2 世界の2023年の軍事費、昨年比7%増で09年以降最大の伸びに



4月22日、スウェーデンのストックホルム国際平和研究所（SIPRI）は、2023年の世界の軍事費が、国際情勢を反映して、前年比で実質7%増の総額2兆4430億ドル（1\$ = 155円として378兆6650億円！）になったと発表した。アメリカは2%増の9160億ドルで、世界に軍事費の37.5%を占めている。

### 3 自民党、派閥の政治資金パーティー裏金事件で関係議員を処分

4月4日、自民党は、党紀委員会を開き、不記載・誤記載のあった裏金議員・選挙区支部長85人の内、「5年間で500万円の不記載」があった39人を、真相解明を全くおこなわないまま処分（離党勧告2人、党員

資格停止1年 or 6か月3人、党の役職停止1年 or 6か月14人、戒告17人)した(処分を免れた裏金議員は46人)。

### 3 日米首脳会談を開催し、共同声明を発表

4月10日、岸田首相とバイデン米大統領が、アメリカのワシントンのホワイトハウスで首脳会談を行い、共同声明を発表した。共同声明では、岸田内閣の軍事費の2倍化と敵基地攻撃能力の保有を「歓迎」し、日米の軍事作戦・能力の「シームレスな統合」をめざす枠組みを発展させていくことを確認した。



### 4 悪法、与野党対決法案が次々と衆議院を通過

法案名	法案の問題点	賛成	反対
経済秘密保護法案	国家機密の範囲を経済分野に拡大	自民・公明・立民・維新・国民	共産・れいわ
民法改正案	離婚後「共同親権」を導入	自民・公明・立民・維新・国民	共産・れいわ
農業基本法改定案	食料自給率を最重点課題から外す	自民・公明・維新	立民・国民・共産・れいわ
子ども子育て支援法	子ども・子育て支援金制度創設	自民・公明	立民・維新・国民・共産・れいわ

● 外国人技能実習制度を改定し、新たな「育成就労」制度を創設する**入管難民法改正案**は、4月16日、衆議院で審議入り

子ども・子育て支援金負担試算年額	2026年度	2027年度	2028年度
協会けんぽ	4,800円	6,600円	8,400円
健保組合	6,000円	8,400円	10,200円
共済組合	6,600円	9,000円	11,400円
国民健康保険	4,200円	5,400円	7,200円
後期高齢者医療制度	2,400円	3,000円	4,200円

### 5 「過労死防止大綱」の見直し案

3月19日、過労死防止対策推進協議会が開催され、「過労死等防止対策大綱」の見直し案の骨子が協議され、確認された。

- **現状と課題**；週労働時間60時間以上の雇用者の減少、年次有給休暇の取得率の向上、建設・運輸・医師の時間外労働の上限規制の実施⇨脳・心臓疾患の労災は横ばい、精神障害は増加傾向。長時間労働対策に加え、メンタルヘルス対策やハラスメント防止対策の重要性が増加。
- **見直しのポイント**；①過労死等の再発防止策、フリーランスへの取組等を推進、②労災事案分析、労働・社会分野の調査研究内容を充実、③実効ある対策に資する数値目標を追加設定
- **数値目標**：労働時間、勤務間インターバル制度、年次有給休暇及びメンタルヘルス対策の延長と留意事項の確認

### 6 公立学校の先生の働き方問題で、中教審特別部会がまとめ素案を提示；残業代の不支給を継続！！

4月19日、文科相の諮問機関である中教審（中央教育審議会）の特別部会は、「教員の職務は、時間外勤務手当制度はなじまない」として、教員の「残業代不支給制度」には手を付けず、「教職調整額」を現行の4%から「10%以上」に引き上げるとする「審議のまとめ素案」を提示した。

### 7 厚労省の「労働基準関係法制研究会」の動向に注意を！

「①『新しい時代の働き方に関する研究会』報告書（2023年10月、全労連は同報告書の撤回と全面的な修正を求めている）を踏まえた、今後の労働基準関係法制の法的論点の整理、②働き方改革関連法の施行状況を踏まえた、労働基準法等の検討」を目的に、厚生労働省の労働基準局長が、学識経験者（労働法学者10人）の参集の下、開催されている「労働基準関係法制研究会」（座長は荒木尚志東大教授）は、1月23日に第1回会議を開催して以降、4月23日に第6回会議を開催するなど月2回のペースで精力的に検討を行っている。この間、労働時間、労働者性、過半数代表などの検討を行っており、**労働基準法という労働者保護法**

の基本となる法律の検討を行っており、その動向を注視していく必要がある。

### 8 5年に一度の年金制度の財政検証始まる

4月16日、厚生労働省の社会保障審議会の年金部会が開催され、「令和6年財政検証の基本的枠組み、オプション試算（案）」が示された。

被用者保険のさらなる適用拡大	i. 短時間労働者の企業規模要件や個人事業所における非適用業種の適用範囲の見直し、ii. 賃金要件や労働時間要件を見直し、一定程度働く被用者をすべて被用者保険の適用対象に、
基礎年金の拠出期間の延長・給付増額	現行の40年（20～60歳）を45年（20～65歳）に
マクロ経済スライドの調整期間の一致	基礎年金（1階）と報酬比例部分（2階）のマクロ経済スライドの調整期間を一致させる
在職老齢年金制度の見直し	就労し、一定以上の賃金を得ている65歳以上の老齢厚生年金受給者を対象とした、老齢厚生年金の一部または全額を支給停止する仕組みを見直す
厚生年金の標準報酬月額の上限の見直し	現行65万円の引き上げの検討

### 9 小林製薬の紅麹サプリメントで深刻な健康被害、機能性表示食品の問題点が浮き彫りに

小林製薬の紅麹配合サプリメントでの健康被害は、4月10日時点の厚労省調べで、5人が死亡、体調不良で医療機関を受診した人が1,321人、入院した人がのべ221人に及んでいる。第2次安倍政権発足直後にアベノミクスにもとづいて規制緩和を行い、消費者庁に届け出さえすれば「機能性表示」が可能となる「機能性表示食品制度」の欠陥が浮き彫りとなった。

#### ● 「失われた30年」日本とドイツの比較

2月15日、2023年の日本のGDP（国内総生産）が発表され、人口が3分の2のドイツに逆転され世界「第3位」から「第4位」に転落したことが明らかになったが、「失われた30年」と言われている日本とドイツのこの30年間を比較してみた。

	日本	ドイツ	備考
実質賃金の伸び	3.1%増	33.7%増	1991～2020年。2022年版「労働経済白書」
年平均労働時間	1626時間	1295時間	2023年版「過労死白書」。パート含む時間
最低賃金	全国平均1006円	1986円	日本は都道府県別、ドイツは全国一律
所得格差	44.2%	34.0%	上位10%の所得シェア。世界不平等研究所(2022年)
ジェンダー格差	125位	6位	ジェンダーギャップ指数（世界経済フォーラム）
食料自給率	38%	86%	日本は2022年、ドイツは2020年
再生エネ電力比率	22%	52%	年間発電電力量に占める再生エネルギーの割合
人口	1億2400万人	8400万人	

#### ● 安倍第2次内閣誕生後の経済指標

3月4日、財務省は、2023年10～12月期の法人企業統計を発表し、資本金10億円以上の大企業（金融・保険業を含む）の内部留保が530.5兆円と過去最高を更新したことが明らかになったが、2012年末に第2次安倍内閣が誕生して以降の日本の経済指標の変化を検証してみた。

	2012年	2023年
経常利益	9.7兆円	18.6兆円（1.93倍）
内部留保	320.4兆円	530.5兆円（1.66倍）
役員報酬	1733万円	2191万円（1.26倍）
一般労働者の賃金	583.7万円	655.9万円（1.12倍）



● 1989年4月1日に消費税が導入されて36年！

1989～2024年の36年間の国民が払った消費税額	累計 539兆円
法人3税の1989年度に対する減収額の総額	累計△318兆円
所得税・住民税の1991年度に対する減収額の累計	累計△295兆円
差し引き	△74兆円！！

第26回定期総会までの主なとりくみ

1 京都総評・2023年度第1回労安対策委員会

- ・ 開催日時・場所：5月29日（水）午後6時30分～、ラポール京都六階・円卓会議室
- ・ 主な内容：各単産の労安活動の交流

2 過労死防止京都連絡会第10回定期総会

- ・ 開催日時・場所：6月8日（土）午後1時30分～午後4時30分、ラポール京都四階・第9会議室
- ・ 主な内容：
  - 第1部：「過労死等の現状と国の過労死等の防止対策の取り組み、過労死等の労災認定基準の改正について」（講師は京都労働局からの派遣をお願いしています）
  - 第2部「第10回定期総会」

3 第31回京都労働安全衛生学校

- ・ 開催日・場所：2024年6月15日（土）午後1時～4時30分、ラポール京都会議室
- ・ 主催：京都総評といの健京都センターの共催
- ・ 開催目的・参加対象者：産別・地域における職場・地域のいの健・ローアン活動家の育成
- ・ 第1講義「労働安全衛生法と職場のローアン活動の進め方」（講師：いの健京都センター・岩橋祐治事務局長）
- ・ 第2講義
  - A講義「ハラスメント防止法と職場のハラスメントをなくすとりくみ」（講師：メンタルサポート京都・飛驒佳美事務局長）
  - B講義「これって労災？～労災保険法入門」（講師：京都職対連・芝井公事務局長）
- ・ 受講料：1,000円（1講義のみは500円）
- ・ 申し込みは、いの健京都センターか京都総評まで

4 第19回Stop!ザ・働き過ぎ！ー働き方を見直す京都集会

- ・ 開催日時・場所：7月13日（土）午前10時～午後4時、ラポール京都の2階ホール及び4階会議室
- ・ 主な内容：
  - i 全体会（10：00～12：30、2階ホール）；記念講演「『人間らしく働くこと』とは何か？世界の労組のたたかいに学ぶ」（講師は全労連の布施恵輔事務局長次長）／基調報告／特別報告
  - ii 分科会（13：30～16：00、2階ホールと4階の第1・7・9会議室）；第1分科会「ハラスメント」、第2分科会「労働時間」、第3分科会「労働安全衛生」、第4分科会「非正規労働者の処遇改善」

5 いの健近畿2024年学習交流集会：8月3日（土）午後大阪市内で開催（企画内容等についてはこれから）

- 6 第26回定期総会；2024年8月31日（土）午後1時30分～5時15分、ラポール京都四階・第12会議室、
  - ・ 第26回定期総会（13：30～15：30）
  - ・ 25周年記念講演会「『いの健』結成25年を新たな出発点とした目標と課題」（仮題）（15：45～17：15）（講師：いの健全国センターの埜田和史理事長（びわこリハビリテーション専門職大学教授）

## 【編集子の独り言④】

### やっばし！憲法！－憲法を生かして、日本の平和と国民のいのちを守り抜こう！

1947年5月3日に日本国憲法が施行されて、今年2024年で77年－ロシアのウクライナ侵攻、イスラエルのガザに対するジェノサイド攻撃、岸田内閣の安保3文書にもとづく敵基地攻撃能力の保有と大軍拡、そして新型コロナと引き続く物価の高騰など、かつてない憲法の危機＝世界と日本の平和、国民生活のくらしの危機の進行の中で、今年の憲法記念日を迎えようとしている。今、“かつてない憲法の危機にどう立ち向かい、それをどう乗り越えていくのか！”が、主権者であるわたしたち国民一人一人に鋭く問われている。

ロシアのウクライナ侵攻をふまえ、軍拡論者は「万が一、日本が攻められたらどうするのか？－その備えを！」と、改憲論者は「日本国憲法で、国民のいのちが守れるのか！－改憲をして、憲法に自衛隊の明記を！」と叫んでいる。

「万が一の場合は、憲法違反の軍隊であっても、自衛隊を活用する」という意見もあるが、わたしは「万が一の場合を絶対に起こしてはならない！」＝「憲法が“永久に放棄”した“戦争と武力の行使”は、絶対にしてはならないし、させてもならない！」と考えている；国家間のさまざまな緊張、対立、紛争は、外交による話し合いで解決する、武力による威嚇や武力の行使、ましてや戦争は絶対にしてはならない。

“万が一に備える”といった抽象的な議論は、意味がないどころか有害であり、軍拡の口実にされるだけである。現実の世界と日本で具体的に考えれば、安倍内閣が集団的自衛権の行使容認を閣議決定し、戦争法（安保法制）を強行したこと、引き続き岸田内閣が安保3文書を閣議決定し、敵基地攻撃能力の保有と大軍拡を進めていることが、戦争と武力の行使の危険性を大きく強めていることが浮かび上がる。台湾有事に米国と日本が軍事的に関与していくことが想定されている。「万が一」の戦争と武力の行使をさせないためには、敵基地攻撃能力の保有と大軍拡を許さず、集団的自衛権行使容認の安保法制を廃止することであり、さらには日米安保条約の廃棄、憲法違反の自衛隊の解散が必要なのではないか！



そして事実の問題として、日本国憲法は、戦後77年間に渡って、日本に戦争に参加させず、武力の行使も許さずに、国民のいのちとくらしを守ってきた。自衛隊は1954年に創設されて今年で70年となるが、この間“戦争で1人も殺さず、1人も殺されもしなかった”世界で稀有な軍隊である。それは日本国憲法が存在し、ときの政府と自衛隊に歯止めをかけてきたからである。一方では、アメリカの軍隊が、在日米軍基地から、朝鮮戦争、ベトナム戦争、湾岸戦争、アフガニスタン・イラク戦争と、出撃し続けていたにもかかわらず…。戦前、“大日本帝国”の軍人等が246万6千人余も戦没等し、靖国神社に祀られているのを見れば、その違いは歴然としているのではない。

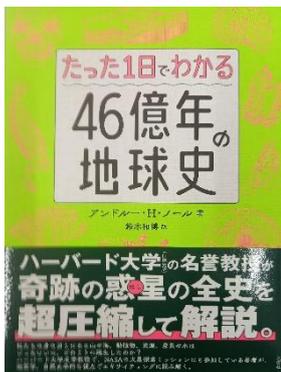


憲法の危機＝日本の戦争と国民生活の危機に抗して、日本の主権者であるわたしたちが、「今こそ憲法を生かして、日本の平和と国民のいのちとくらしを守ろう！」と大きな声を上げ、行動に立ち上がらなくてはならないときである。

## IV 今月のお勧めの3冊：「夜、寝る前に読みたいー宇宙の話」、「たった1日でわかる46億年の地球史」、「一からわかる人類と日本人の起源」

今月の3冊は、少し趣向を変えて、自然科学の「宇宙」、「地球」、「人類」についての入門書を紹介させていただきます。自然科学の分野は、昔学校で習ったときよりもはるかに進歩していて、あらためて勉強すると、ほんとうにおもしろく、興味・関心が湧き起こってきます。

まず、138億年の歴史を持つ「宇宙」についての入門書ー野田祥代「夜、寝る前に読みたい宇宙の話」(草思社、2022年4月初版、1400円+税)。本の帯には、「心の宇宙旅行をしてみませんか」、「なぜ私たちは、時速10万キロでひた走る、小さな岩の惑星に生まれてきたのか。目を閉じて、想像の力で地球を飛び出そう。『宇宙からの視点』が、あたりまえの日常を根本から変える」とあります。「星が死んだら、人になる」ー138億年の歴史を持ち、果てしない広さを持つ宇宙から、“地球人としての一員としてのわたし、そしてあなた”を考えさせてくれます。ほんとうに読みやすい、わかりやすい好書です。



次に、46億年の歴史を持つ「地球」についての入門書ーアンドルー・H・ノール「たった1日でわかる46億年の地球史」(文響社、2023年4月初版、1780円+税)。本の帯には、「いざ、地球規模の知的冒険ロマンの旅へ!」、「ハーバード大学・自然史学の名誉教授が、奇跡の惑星の全史を超圧縮して解説ー私たちの身の回りにある山や海、動植物、資源、空気や水は、いったいいつ、どのように誕生したのか?ーハーバード大学名誉教授で、NASAの火星探索ミッションにも参加している著者が、地質学、自然史学的な視点でエキサイティングに読み解く」とあります。地球とその地表にあふれ、ダイナミックに変化し続けている生命体の物語を生き生きと描いています。著者は、「世界が破滅に向かっており、その元凶は大気中に温室効果ガスを排出している人間だ」と警鐘乱打し、「現在の地球を生み出した長い歴史を尊重し、人間の活動が40億年かけて作られた世界にどれだけ深刻な影響を与えているのか認識し、それに対して行動すること」を、最後に呼びかけています。

最後に、20万年ほど前に生まれたホモ・サピエンス=現代人類についての入門書ー加藤長「一からわかる人類と日本人の起源」(同時代社、2024年2月初版、2000円+税)。本の帯には、「ヒトはどこから来たのか-これまでの科学的学説を紹介し、現在定説化しているものを基本にしながら、人類学、遺伝学(分子人類学)の流れを整理。日本列島に渡来したホモ・サピエンスの活動などをわかりやすく解説する。」とあります。「はじめに」で著者は、本書の執筆の動機を「人類と日本人の起源として科学的にわかっていること、未解明なことを整理してみる」ことだとし、ゴーギャンの大作「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか」がわたしの現在の問題意識そのものだとしています。「人類の何百万年もの進化の期間内で、宇宙の中の太陽系の生命体として誕生し、数十年を地球で生かしてもらったわたしたち」が、そのことを学ぶ意義は大きいと思います。



みなさん! 一宇宙と地球の視点に立って、そして人類の歴史から、あらためて「わたしのこと、そしてあなたのこと」を考えてみませんか!